

## (2) 岐阜県立多治見高等学校における実践

### < 授業実践 >

#### 授業実践に向けての構え

- ・自分の声を耳で聞くことは、英語を定着させる上で大変有益であるので、音読重視の授業を展開するよう努める。
- ・O.C.I では特に音声を重視した授業展開をし、定期考査では毎回リスニングテストを実施する。
- ・音読練習、通訳練習などにより、英文を頭に残すのに効果的な指導を工夫する。
- ・本文の要約、作文の指導などにより、コミュニケーション能力を育成する。
- ・生徒の活動量を増やすため、また、生徒同士で教え合うことも良い刺激になるため、ペアワークを積極的に取り入れる。
- ・ウィークリーテストや小テストにより、文法・構文・単語の基礎力の定着を図る。

#### 第1回授業交流研究会

【期日】 平成18年7月3日(月)

#### 【公開授業】

- ・単元名 Fifty-Fifty Book One (Longman) Lesson3 “Day to Day”
- ・授業学校・学年 多治見高等学校 1年
- ・主な提案内容

日常の出来事についての対話練習を通し、イントネーション、ストレスなどの音声面、アイコンタクト、ジェスチャーなどノンバーバルコミュニケーションの大切さを重視し、徐々に自然な形で対話ができるよう指導手順を工夫した。また、生徒間による評価も取り入れた。

#### 【授業研究会】

##### 話題になったこと

- ・中学校では「聞くこと、話すこと」を重視するよう求められている。高校でもO.C.の授業で「聞くこと、話すこと」の指導がしっかりとされていることに感心した。
- ・イントネーション、ストレスはメッセージを有効に伝えるために大切である。
- ・JTEとALTの話す英語が、スピード、ポーズ、ストレスの点なども含め、非常に聞いていて心地良かった。英語を聞かせるのは指導の基本である。

##### 指摘があったこと

- ・同じパートナーと3回練習したので、パートナーを変更させてもよかったと思うが、伸びを把握するには同じパートナーの方がよいかもしれない。

##### 明らかになった成果と課題

- ・教員だけで全員の生徒の活動状況を評価するのは困難なので、生徒間による評価を取り入れられたのは非常に意義深いことで、今後よりよい形につなげていけると良い。
- ・本時は、ねらいがよく反映された授業であった。今後、本時のようにねらいを意図した授業が継続して実施されると良い。
- ・誰かに何かを伝えた時、何らかの反応が返ってくると嬉しいものだ。それがコミュニケーションの醍醐味である。

## 第2回授業交流研究会

【期日】 平成18年12月5日(火)

### 【公開授業】

・単元名 UNICORN ENGLISH COURSE (BUN-EIDO)  
Lesson4 SLEEPING WITH LIONS (PART2)

・授業学校・学年 多治見高等学校 2年

#### ・主な提案内容

音読を活動の中心に据えた。前時に重要文法事項・語句の確認をはじめとした、正しい内容把握に必要な事項を十分に指導したうえで、本時では、正確な発音、リズム、イントネーションで本文を読むことにより、音と意味を一致させ、リスニング能力を高め、より深く内容把握ができ、最終的には要約ができるよう活動を仕組んだ。

### 【授業研究会】

#### 話題になったこと

- ・日本語の語順ではなく、頭から意味を捉えさせるため、チャンクを意識した指導がなされている。意味の区切りを意識させることは大切である。ただ通じれば良いという間違ったコミュニケーション観から脱却したい。
- ・ペアワーク、個人の活動共にどの生徒も真剣に取り組んでいた。中学時代に英語を苦手としていた生徒も熱心に活動しており感激した。
- ・(要約させる前にどのような指導をしているかという質問に対して) 予習の段階で、日本語で本文をまとめられるように準備しておき、授業で日本語による要約をさせた後、日本語訳を含めた内容把握に入り、音読練習をした後、英語で要約をして締めくくりにしている。

#### 指摘があったこと

- ・目的を明示して音読練習に取り組ませた方がより達成感を感じられるのではないか。
- ・強く読まれる単語を意識すると違った聞き方ができ、要約にもつながるのではないか。
- ・生徒もどういった力をつけるために活動するのか分かっていることが大切である。
- ・人の書いた要約を共有する時間をもてると良いのではないか。

#### 明らかになった成果と課題

- ・“English-Japanese translation” は、話している方は英語を話しているような気分になれ、訳している方も同時通訳の気分を味わえるせいか、生徒は大変熱心に取り組む。
- ・中学校では、要約することは、タイトルを考えるなど何かヒントがないとなかなか難しいが、取り入れることは可能であると思われる。
- ・(単語テストに関して) 実際に発音できない語は覚えられないし、書けないものなので、次時の範囲の単語を発音しているのが非常に良い。

## <グローバル・スタンダードによる英語力分析調査>

【期日】 平成18年11月15日(水)

【受験者数】 1年生13名、2年生42名 計55名

### 【結果分析】

セクション のリスニングの得点が一番高かったが、多くの生徒がスピードが速く難しいと感じている。一方、標準偏差の値はセクション の文法事項において一番高かった。文法事項は日頃の授業で基礎・基本から指導しているが、定着率に個人差があるように思われる。

今後の課題としては、文法事項を確実に習得し、語彙を増やすことにより読解力を高めると同時に、ナチュラルスピードに近い英語をできるだけ正確に聞き取れるよう、音声面を重視した指導をさらに工夫し、英語で発信する力も高められるようにしたい。

#### < 学習環境の充実 >

##### 英語学習教材

英検問題集・・・受験者に貸し出した。12月末現在で、8名の生徒が準2級に合格している。「Asahi Weekly 英語が聞こえる耳」(CD)・・・リスニング能力を高めるため利用した。

##### 外部講師招聘

【期日】 平成18年11月16日(木)

【対象生徒】 1～3年生希望者50名

【講師】 南山大学助教授 マーク・ライト先生

【内容】 南山大学外国語学部英米学科の学生が1年時に受ける授業を体験した。

“l”と“r”の音を聞き分け、道案内のリスニング、“Find someone who...”、また相手を変えながら1分間対話をするといったコミュニケーション活動を行った。

##### 【生徒の感想】

- ・リスニング力がまだまだであることを認識した。また、自分の伝えたいことを英語で表現する際に、頭に浮かんだことをなかなか口に出せなかった。
- ・分かりやすく英語を話してくださったので、冗談も含めておっしゃっていることが理解できて本当に楽しかった。今後適切な発音ができるよう努力していきたい。
- ・いろいろな人とコミュニケーションがとれて嬉しく思った。

#### < 成果と課題 >

中学校の学習指導要領では、「聞くこと」「話すこと」が重視されている。多治見中学校の英語科の先生方は、現代の日本人には「読むこと」「書くこと」もそれ以上に大切であると考えており、それが授業にも反映され、「読むこと」「書くこと」の指導にも重点がおかれている。中学校では、4技能のバランスが実によくとれた指導がなされているということを再認識させられた。高校においては「読むこと」「書くこと」が中心になりがちだが、「聞くこと」「話すこと」はOral Communicationの授業を中心に指導している。生徒たちは中学時代に熱心にコミュニケーション活動に参加してきているので、ペアワークなどには積極的に取り組む。今後は、より意味のあるプロダクティブな言語活動ができるよう、指導に工夫を重ねたい。

昨年度より特に音声面の指導を重視している。中でも音読指導に力を入れており、音読活動に意義を感じ、楽しいと答える生徒も増えてきている。また、シャドウイングを含めた通訳練習時は、まるで自分自身が英語を話しているような気分を味わえるせいか、生徒の表情は大変生き生きとしている。音読練習や通訳練習は、楽しみながら英文を脳に刻み込むのに大いに貢献しているように思う。

自分自身の言葉で読んだものをまとめたり、感じたことを表現したりといった点においてはまだ不十分であると感じているので、今後は、熱心に活動に取り組んでいる生徒たちの意欲をさらにかきたて、最終的には英語という道具を十分に使いこなせるよう、さらに効果的な指導を考えていきたい。